

複層ビニル床タイル貼り
施工要領書

シンコール株式会社

1. 施工方法（下地条件）

- ①モルタル下地は、平滑で表面にザラメや粉ふきが無いかチェックする。また湿気が多いと接着不良や膨れを生じる場合があるため、充分乾燥させてから施工を行う。下地水分率の目安としては、高周波容量式水分計での計測値が8%以下の場合是一般工法、8~10%の場合は耐水工法を選択する。水分計での計測値が10%以上の場合、施工はできないので対処法に関して協議を行う。
- ②コンパネ下地はしっかり固定されていること、接合部における不陸、目違いやたわみがないかチェックする。釘頭の飛び出しやビス打ちによる凹みがある場合は、施工後タイルの表面に凸凹が現れるので、協議のうえ下地調整材などで平滑になる様に下地調整を行う。
- ③下地には接着を妨げるような塵埃、モルタルのあく、油脂類、錆などの付着は除去してから施工を行う。
- ④下地の表面強度が十分かどうかチェックする。表面強度が弱いと接着剤が床に密着せず、床タイルの剥れ事故に結びつくので、この様な時は下地補強剤（モルタルに浸み込むもの）で前処理してから施工を行う。
- ⑤耐水工法では、反応タイプで耐水性のあるエポキシ系又はウレタン系を選定する。

2. 施工手順

- ①割付
 - ・割付図または、デザイン貼りの指示に従い、中心線（基準線）を引き、壁ぎわ、出入口、柱などの納まりを検討し床タイルの貼り出し墨を設定する。
- ②接着剤塗布
 - ・接着剤は規定のクシ目ごてを用いて指定量を均一に塗布するが、1回の塗布面積は貼付け可能時間内に床タイルを貼り終える面積とする。
 - ・オープンタイムは接着剤の種類や塗布量・下地の吸水性・温度・湿度・通風量など現場の施工環境により異なるので、接着剤の乾燥状態を実際に確認しながらタイルを貼る。
 - ・エポキシ系接着剤を使用の場合は、混合比に注意し充分攪拌して使用する。
 - ・壁ぎわまわりの塗布は、3mm以上の空白を残さない様にする。また、この部分はオーバータイムになりやすいので注意して塗布する。
- ③床タイルの貼り付け
 - ・貼り出し墨から貼り始め、目通りよく目違い、目地違いのないように、壁際に向かってタイル裏側の流れ方向を合わせて貼り込み、手またはハンドローラーで充分圧着する。
 - ・床タイルを施工後、半月以上その部屋を使用しないときは、目違いのクレームを生じやすいので、溶剤型接着剤を使用し、適時換気を行うよう注意する。
 - ・床タイル表面に付着した接着剤は、接着剤が硬化する前にアルコールで速やかに除去する。シンナー等溶剤で拭き取る事はタイルの変形や膨れの原因となるので避ける。
- ④カット
 - ・壁際に貼るタイルを1列前の床タイルに正確に重ね、その上から別のタイルを壁際に沿わせて当てて寸法を出し、その端をカットする。
 - ・カットした面がきれいになっていない場合、タイルの寸法がきつめの場合はカンナ等で寸法調整を行う。
- ⑤圧着
 - ・平場は45kgローラー、壁際やカット部分はハンドローラー等で圧着可能時間内に十分に圧着する。

3. 注意事項

- ①色違いや模様の貼り違いがないかを確認する。
- ②目地違い、あるいは隙間の有無を確認する。
- ③ジョイント部分がよくかみ合っているか、盛り上がっていないかを確認する。
- ④突起物、空気だまりによるふくれはないかを確認する。
- ⑤重い家具什器等を移動する場合はベニヤ板をタイルの上に敷いて養生を行う。施工からまもない場合は特に注意する。
- ⑥冬期に施工を行う場合は、低温ではタイルが硬くなり目違いなど不具合に繋がるので、室温を十分に上げ材料を室温に馴染ませてから施工を行う。特に冬期は接着剤の硬化が遅く接着強度の発現も遅くなる傾向があるので、貼付け後の圧着を特に入念に行う。
- ⑦タイル施工直後のワックス塗布は突き上げや反りの原因となるので、接着剤が完全に硬化してから行う。